

南房大海港出船

撮影●鈴木良和

涼しい時間に釣りをエンジョイ!
早朝シフトのクロムツ&根魚五目



●根魚五目のポイントは太海中の水深10～50メートル。当日はライトゲームロッドと小型両軸リールの組み合わせで釣る人が多かった



●船長によれば、クロムツ(ムツ)の反応は連日バツチり出ているとのこと、潮具合が変われば釣果アップの期待大



●アオハタを釣った三村さん



●キントキは一人10尾以上の良い日も見られる



●胸の間の松目さんが1キ口級のマハタをキャッチ



▼カサゴは大小交じり



▲アカハタも南房でかなり増えている



▼オニカサゴは毒トゲに注意



●フラッシュャーサビキは船宿仕掛けがおすすめ



●クロムツは底から10メートルまで誘い上げる

●クロムツの釣り場は太海中の水深90メートル前後



▲クロムツ仕掛けはフラッシュャーサビキ、オモリ150号、根魚五目は胸つき仕掛け3～5本バリ、オモリ60号を使用。根魚五目のエサは持参となり、カタクチイワシやサバの切り身が定番



●5キロのイシナギを上げた松尾さん



●ホウボウは意外と引きが強い

釣り物多様な南房の人気メニューといえ、フラッシュャーサビキ釣り季節の魚やイカ釣りなどを組み合わせたりレール船。太海港の聡丸はこの時期、早朝の2時間ほどフラッシュャーサビキでクロムツを狙ったのち、キントキやカサゴなどを主体とした根魚五目へ転進するスタイルで出船中。

取材日は南西風による底荒れで食い渋ったものの、クロムツは30～40センチ級の良型主体で、根魚五目はキントキ、カサゴ、オニカサゴ、アカハタ、アオハタ、ホウボウ、ムシガレイ、小型のイシナギなど多様な魚が上がり賑やかな釣果を得た。

同船はこの時期、午前2時40分に港を離れ、8時半ごろ沖揚がりする早朝シフト。涼しいうちに釣りを楽しみ、帰宅後はのんびりできるのがうれしい。(詳細は58ページ参照)



●南房大海港 聡丸・松下 聡船長